



大谷美術館賞を受賞 「コルテン[®] 鋼」の“さ美”を活かした 全溶接住宅IRONHOUSE

新日鉄と(株)梅沢建築構造研究所、(株)椎名英三建築設計事務所、(株)高橋工業の共同受賞



新日鉄の「コルテン鋼^{※1}」の素材感や性能を存分に活かした全溶接住宅が、平成23年度大谷美術館賞^{※2}を受賞した。都市部の個人住宅を100年以上継続使用する思想のもと設計・施工され、時の経過で風格を増し、30年と言われる日本の住宅寿命の常識を打ち破る試みが評価された。

東京の閑静な住宅街に建てられたアイアンハウス(IRONHOUSE)は、構造設計を担当した梅沢良三氏の私邸で2007年に竣工。住宅の長寿命化を実現するため、住宅の外殻を屋根・壁一体のシェルター構造にして腐食や老朽化の要因となるパネルジョイント部を極力減らす設計で、素材にはコルテン鋼が採用された。

コルテン鋼は合金元素の働きで表面に緻密な保護性さびを生成し、母材へのさびの侵食を抑える「さびをさびで制する」特性を備える。その結果、普通鋼に比べ4〜8倍もの優れた耐候性を持ち、ミニマムメンテナンスで超長期での使用を可能にし、ライフサイクルコストや環境負荷の低減に貢献する。新日鉄厚板営業部部長の田中睦人はコルテン鋼について次のように語る。

「コルテン鋼は、時の流れとともに外観が重厚さを増し、日本の風土や街の景観に調和した美しい色調^{さ美}を醸し出します。」

この独創的な特性を活かし、建築分野での可能性を切り拓きたいと考えています」

梅沢氏はアイアンハウスの建設思想について次のように語る。「建築物は一般的に完成時が一番素晴らしく、その後は経年劣化していきます。しかしコルテン鋼を用いたこの家は、初めから50年建っているような風格と趣があり、時の経過でさらに深みを増します。さらに全溶接を採用したことで弱点であるジョイント部の劣化を防ぐことができ、超長期使用が可能な建築物の姿を示すことができました」と。



左から新日鉄・田中睦人、梅沢良三氏、高橋和志氏、椎名英三氏

※1 コルテンはUSスチールの登録商標

※2 大谷美術館賞：(財)大谷美術館の大谷利勝館長(日本機械学会 機械材料・材料加工部門初代部門長)が長年、金属を研究されてきた立場から、材料そのものの表面的評価向上に関する優れた作品および顕著な技術・業績を表彰するために企画された賞。